

生活環境中のにおいに対する意識とにおい関連製品の使用実態 —大学生を対象とした住まい方・嗜好の違いからの検討—

東 実千代¹⁾, 佐々 尚美²⁾

¹⁾畿央大学健康科学部 ²⁾武庫川女子大学生生活環境学部

A study on the opinion of odor and the use of fragrance products in living environments - Analysis from a questionnaire survey on university students-

Michiyo AZUMA¹⁾, Naomi SASSA²⁾,

¹⁾ Faculty of Health Science, Kio University, ²⁾ Department of Human environmental Science, Mukogawa Women's University

Abstract: In recent years a lot of housekeeping products aimed for adding fragrance have been developed. The effect that odor in living environment gives in comfort is conspicuous, the individual differences such as gender or generation influence evaluation and how to feel about odor. In this article, we conducted a survey to investigate the use situation and the evaluation of fragrance products, and 283 students of university and college completed the questionnaire form. The ratio of answers that we are sensitive to odor was higher women compared with men, moreover the length of being in a house influenced the sensitivity of the ratio that we mind to living environment odor. A ratio minding one's own odor was high irrespective of gender, but gender gap was found in a ratio minding about odor of others. The answer that we would like to take fragrance positively in the daily life was about 30% of women and about 20% of men. Compared with men, women had an interest in fragrance-related products. An individual difference was found in the evaluation such as deodorization or cleanliness of sanitization spray for fabric articles.

Key words: questionnaire, odor, living environment, lifestyle, university student

要旨: 近年、居住空間におけるにおい対策として、消臭を目的とするだけでなく、香りを付加価値として積極的にとりいれた製品も数多く開発されている。生活環境中のおいが快適性に与える影響は大きく、その評価や感じ方には性差や年齢などの個人差が影響する。そこで本報では、大学生男女を対象としたアンケート調査を実施し、においに対する意識やにおい関連商品の使用実態や評価を調査した。においに敏感であるとの回答は女性に多く、敏感さは家での滞在時間と共に生活臭が気になる程度に影響を及ぼしていた。全体として自分のにおいを気にすると回答する割合が高かったが、他人のにおいには共学と女子大間で差がみられた。日常生活に積極的に香りを取り入れたいとの回答は男性で約20%、女性で約30%であった。香り関連製品への興味関心は女性が高く、近年普及した布製品用除菌スプレートの洗濯に比べた除菌性、消臭性、汚れ落ち等の評価には個人差がみられた。

キーワード: アンケート調査, おい, 生活環境, 住まい方, 大学生

1. はじめに

生活環境中のおいが快適性に与える影響については幾つかの報告がある(光田ら, 1991, 1992)。不快なおいを除去するだけでなく、近年では積極的に香りを付加することに重点を置いた製品や、抗菌機能を併せ持つ製品も数多く開発されている(永友, 2006)。本報では、大学生を対象としてにおいに関する意識や香りを付加した商品に対する興味や評価を調査することを目的とした質問紙調査を分析した結果を報告する。

2. 方法

2.1 調査の概要

奈良県内共学大学生および兵庫県内女子大学・短期大学生を対象とし、質問紙法による集合調査を2011年12月に実施した。有効回答数は283部であった。

2.2 調査項目

回答者の性別・年齢等の個人属性、在室時間や掃除・換気状況、においの敏感さ、自分や他人のにおいが気になる度合い、気になる生活臭、においの思い出、香り付き製品の使用実態、除菌消臭製品に対する評価等

3. 結果と考察

3.1 調査対象者の概要

調査対象者の概要を表1に示す。女性が78%を占め、82%が自宅生であった。年齢は18歳から23歳で、全体の44%が何らかのアレルギー性疾患を持っていた。空気清浄機を使用しているのは全体の3割強であった。

3.2 室内空気の汚れへの対策について

室内の空気の汚れへの対策は、「窓開け換気をする」が85%で最も多かったが、「芳香剤・消臭剤を使用する」は13%で「換気扇をつける」と同程度の割合を占めた。

3.3 においの感受性・嗜好について

においに敏感かどうかは、女性に「とても敏感」と回答する割合が高い傾向があった。自分のにおいが「とても気になる」と回答したのは男女とも3割弱であったが、他人のにおいについては、共学生が1割、女子大が2割と差があった（母比率の差の検定： $p < 0.05$ ）。気になる生活臭については、料理や生ゴミのにおいが約30%で最も多く、自分の体臭、タバコ臭が各約20%で、20代～50代を対象とした調査結果（2009年、 $N=800$ ）と比較すると、全体的に申告率が高い傾向であった。また、心地よいと感じるにおい環境について「香りを付加した生活」「日常的な生活臭のある生活」「何もおわらない」のいずれかで回答を求めたところ、それぞれ30%、40%、27%と意見が分かれた。他人の香りの付加には女性が否定的であった（ χ^2 検定： $p < 0.01$ ）。来客前に部屋に香りを付加したいと思う割合は、においに敏感な人に高い傾向があり、自分のにおいが気になる人では有意に高かった（図1）（ χ^2 検定： $p < 0.001$ ）。

3.4 におい関連製品の使用実態・評価・興味について

自宅におけるにおい関連製品の使用率は、居間・寝室で3割、玄関で4割、トイレでは7割強で、各室とも置型芳香剤使用が多いが、トイレではスプレー式を併用するケースもみられた。使用者の8割が香りを重視して製品を選択しており、近年普及した布製品用除菌消臭スプレーの使用割合は6割であった。洗濯して天日干しした場合を100として除菌消臭スプレーの性能を評価させた結果、除菌・消臭性は60、清潔感45、汚れ落ち35程度であったが、除菌・消臭性については洗濯以上の評価もみられた（図2）。様々な芳香商品についての興味では、全ての商品で女性の使いたい割合が高かったが、外国製の香りの強い柔軟剤については男女ともに使いたくない回答が半数以上を占め、強い香りよりほのかな香りを好む傾向が示唆された。

4. まとめ

大学生を対象とした質問紙調査の結果、においの嗜好と使用実態に関連がみられた。今後は香りの付加に対する評価の個人差への配慮も検討する必要がある。

表1 調査対象者の概要

	性別			居住形態		
	男性	女性	不明	下宿	自宅	不明
共学大	59	95	2	22	134	0
女子大	0	68	0	18	50	0
女子短大	0	59	0	8	48	3
計	59	222	2	48	232	3
総計	283					

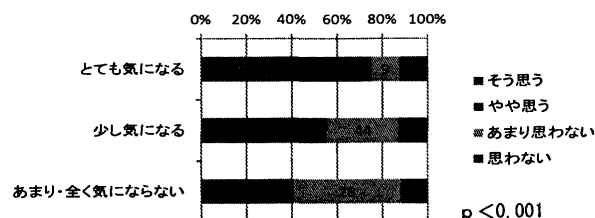


図1 自分のにおいが気になる程度と来客時に香りを付加したいと思うか

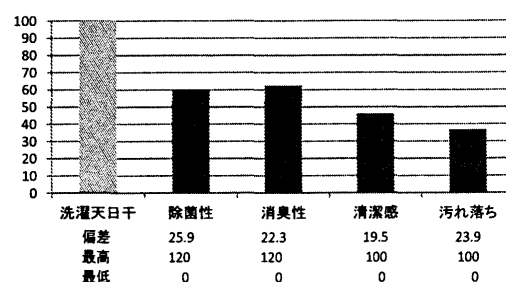


図2 布製品用除菌消臭スプレーの性能評価

謝辞 調査に協力頂いた学生の皆様、調査の実施・分析に協力頂いた對馬亮氏（当時畿央大学健康科学部4回性）に御礼申し上げます。

6. 文献

- 光田恵, 山崎古都子, 大迫政浩, 西田耕之輔, 1991: 住環境における快適因子としてのにおい事象について, 臭気の研究, 22(3): 42/43
- 光田恵, 山崎古都子, 大迫政浩, 西田耕之輔, 1992: 住環境における快適因子としてのにおい事象について, 臭気学会口演要旨集: 48/49
- 永友成美, 2006: 家庭用芳香消臭剤の市場と開発動向, 臭気の研究, 37(5): 355/361
- 松井静子, 1998: においと住生活, 人間と生活環境, 6(1), 4/12
- 小林製菓株式会社ニュースリリース
http://www.kobayashi.co.jp/corporate/news/2009/090427_01/index.htm, 2012/120723_01/index.html

<連絡先>

連絡先氏名 東 実千代
 住所 奈良県北葛城郡広陵町馬見中 4-2-2
 所属 畿央大学健康科学部
 E-mail アドレス m.azuma@kio.ac.jp